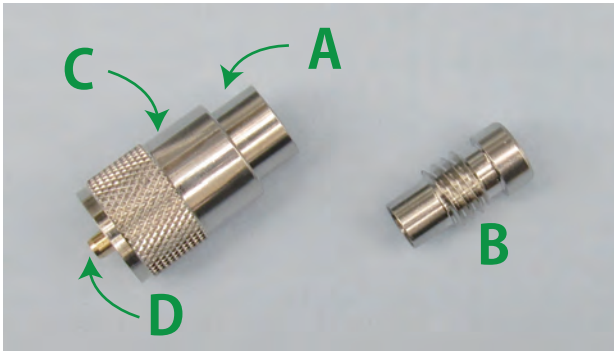


UHF コネクタ (オス) 同軸ケーブル用 M-P (5D-2V 用)

[U-001-5D2V] 通販コード C-00175

ケーブルの取り付け方

① コネクタ構成部品



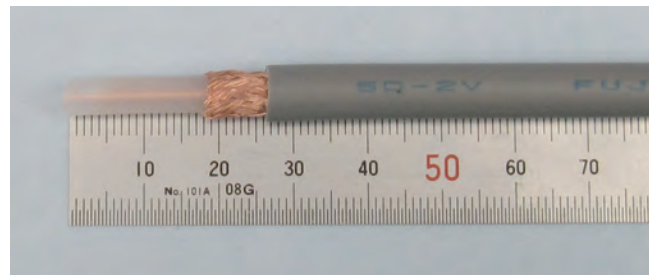
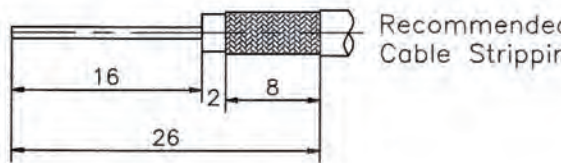
コネクタのシェルからリデューサーを取り外しておきます。このとき、接続ナットはそのままにしておきます。

◆各部の名称

- A: シェル
- B: リデューサー (5D2V ケーブル用アタッチメント)
- C: 接続ナット
- D: 中心コンタクト

② ケーブルの加工

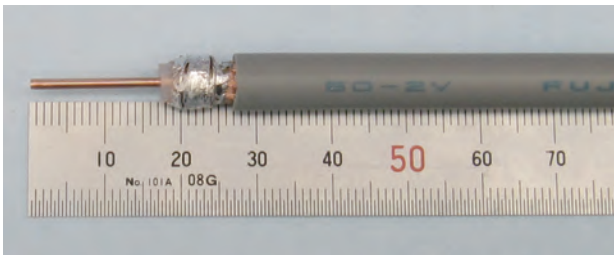
下記の寸法に合わせて加工します。



このように外部導体 (シールド) の編線をカットします。

③ ケーブルの下処理

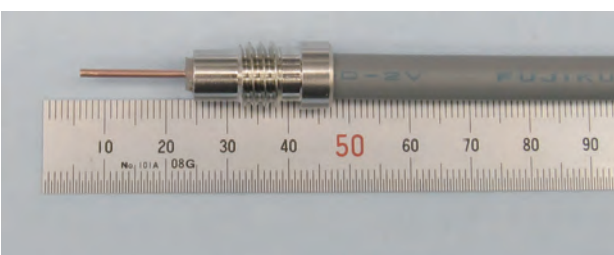
外部導体の編線を下のようにはんだ付けします。



後工程のはんだ付けのために、外部導体の編線にすずめっき線 (0.6mm 径程度) を数ターン巻き付けはんだメッキ処理をしておきます。仕上がり径が 7.5mm を超えないようにします。

④ 部品 B (リデューサー) の取り付け

ケーブル先端をリデューサーに通します。



このとき、ケーブルの絶縁体がリデューサーから 2 ミリほど突き出るようにセットします。

⑤ 部品 B (リデューサー) とケーブルの外部導体のはんだ付け

シールドの編線を下のようにはんだ付けします。



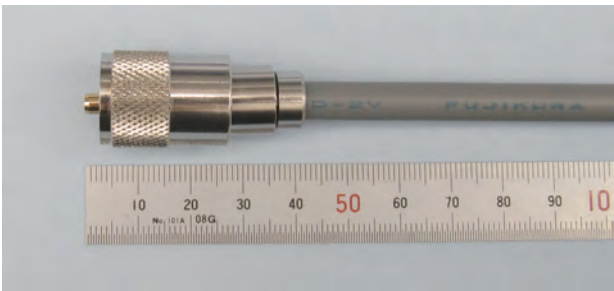
使用するはんだごては、温度調節機能付きまたは 60W 以上のものをお勧めします。

手早くはんだ付をおこなってください。長い時間こてをあてていると、ケーブルの絶縁体 (ポリエチレン等) が融けて変形してしまいますので、ご注意ください。

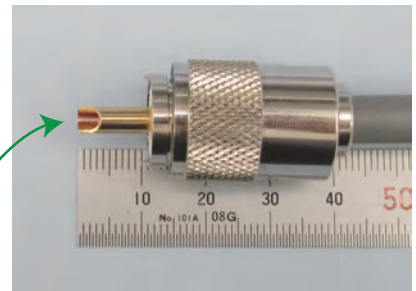
こて先の温度設定は、350℃~370℃(共晶はんだの場合)を目安としてください。

⑥ 部品 B (リデューサー) をシェルにセット

ケーブルを取り付けたリデューサーをシェルにセットします。

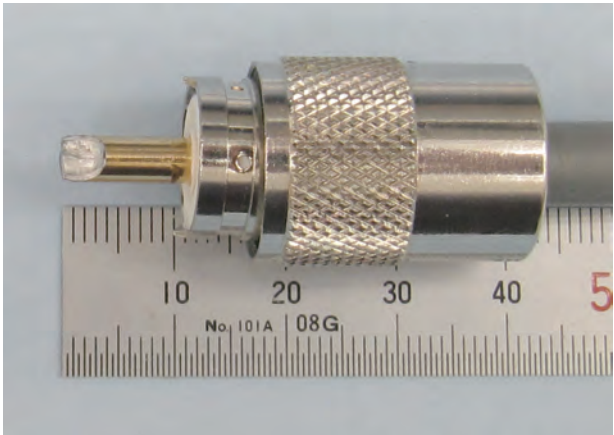


このとき、リデューサーをシェルにしっかりとねじ込んでください。



D の中心コンタクトから、ケーブルの内部導体 (芯線) が飛び出していないか確認します (飛び出していれば、余分な部分をカットします。)

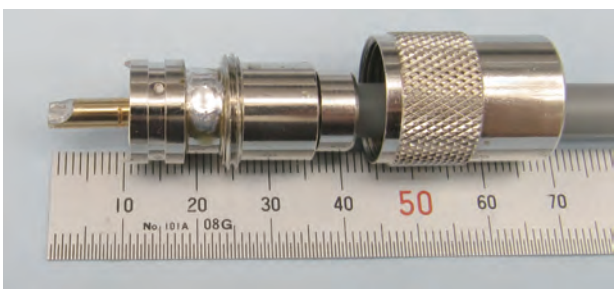
⑦ 内部導体と中心コンタクトのはんだ付け



中心コンタクトにはんだを流し込むようにしてケーブルの内部導体 (芯線) をはんだ付けします。手早くはんだ付をおこなってください。長い時間こてをあてていると、シェルの絶縁体 (デルリン) が融けて変形してしまいますので、十分にご注意ください。

テスターで導通および短絡の有無を確認します。これで、加工は完成とすることができますが、さらにケーブルとコネクタの結合強度を高める必要がある場合には、次のステップに進んでみます。

⑧ シェルとリデューサーのはんだ付け (高い技量と熟練を要します)



シェルから接続ナットをケーブル側にはずします。シェルにある 2 つの穴からリデューサーとシェルをはんだ付けします。手早くはんだ付をおこなってください。

長い時間こてをあてていると、シェルの絶縁体 (デルリン) が融けて変形してしまいますので、ご注意ください。

ご参考：ポリエチレンの融点約 130℃
デルリンの融点約 175℃

※製作見本で使用しているケーブル：5D-2V(FUJIKURA)

2015-03-16 株式会社秋月電子通商